

原水爆禁止世界大会参加者 報告

市民の皆さんと一緒に

吉川 陽子

「核兵器と原発」の分科会に参加しました。ライナー・ブラウン国際ビューロー共同代表が「ドイツは保守政権だったが、全原発の閉鎖に踏み切った。決定したのは政府だが、それまでの市民や科学者の粘り強い取り組みがあればこそその決定だ。」と、力強く語りました。今回日本各地から報告された、再稼働差し止めを求める市民運動の一つ一つが、同じようにその一歩なのだと感じました。吉井英勝さんが科学者としての視点から「原発で作られるプルトニウムは、原爆のプルトニウムとは種類が違うが、それでも核兵器を作る能力は十分にある」「再生可能エネルギーの爆発的普及を進めることができれば、企業や経済もついてくる」と言い、核の利権の根深さも、打開方法のヒントも示してくれました。東京に帰ってきてから、「練馬グリーンエネルギー設立イベント」に参加しました。練馬の市民の皆さんと一緒に一歩ずつ頑張りたいと思っています。

吉田 裕美

今年、初めて原水禁に参加させていただきました。初めての広島で、平和公園や原爆資料館に行き、実際に自分の目で事実を学ぶことができました。

2日目は、「核兵器廃絶とくらし」分科会に参加しました。平和（9条）と、福祉（25条）は、互いに支え合っている関係であること。しかし、現代の日本においては十分な社会保障が受けられずに苦しんでいる人たちがいて、そのような人たちが平和を願う心を持ってないという現状があることを知りました。今、この場所で、自分にできることは何かを改めて考える機会になりました。